

# 市政に 対する 一般質問

## 〽〽6名の議員が質問〽〽

6月定例会の一般質問は、6月19日及び20日の2日間にわたり行われました。質問順は一括質問一括答弁方式と一問一答方式に分けず、抽選順となっております。質問の要旨は次のとおりです。

**平間 知一** 水道管の老朽化・耐震化等の対策について (一括質問一括答弁)

**伊藤 勝美** 職員の人事異動について他 (一問一答方式)

**菅野 恭子** 市営住宅賃貸借契約に伴う連帯保証人について 他 (一問一答方式)

**山田 裕一** メガソーラー誘致について 他 (一問一答方式)

**佐久間儀郎** 生涯スポーツの振興について 他 (一括質問一括答弁)

**四竈 英夫** 新たな道路施設の計画について (一括質問一括答弁)

## 水道管の老朽化・耐震化等の 対策について 平間 知一



〔質問〕市街地中心部の配水管の大半は40年の耐用年数を過ぎている。水道管の管路、配水池等の耐震化率について伺う。

〔答弁〕【市長】市内中心部の老朽管路の耐震化率は約7%の進捗率である。また、配水池では重要な施設を対象に耐震診断を行っており、10カ所のうち9カ所で耐震性を有している。

〔質問〕耐震化に向けた年次計画では緊急度の高い布設替え21.5キロメートルを計画的に更新し、平成26年度以降は1千200メートル前後の工事を行なっていくとのことだが、企業債の元利償還金の一部を一般会計で負担するなどし、年次計画を早める必要があると考えるがいかがか。

〔答弁〕【市長】老朽管更

新については、現在設計の見直しや維持管理コストの縮減及び老朽管布設替え費用の一部の国庫補助を検討するなど、財源の確保に努めていきたい。

〔災害時協力井戸〕登録制度導入について  
〔質問〕災害時に家庭や企業の井戸を生活用水として提供してもらおう制度が全国の自治体に広がっている。

国では各地の地域防災計画に反映するよう呼びかけているが、本市の今後の取組みはどうなっているのか。

〔答弁〕【市長】県が平成23年3月に井戸実態調査を公表、本市にある井戸は個人、事業所を含めて31カ所の井戸がある。

市としても、井戸を水質検査の必要がない飲用以外の雑用水として使用する防災施設と位置づけるべく、地域防災計画の検討項目に加え、登録制

度導入を前向きに検討している。

〔学校防災整備について〕  
〔質問〕文科科学省は国の財政支援制度を活用して整備を加速するよう呼びかけている。市の学校防災整備・備蓄倉庫整備・鍵などの管理体制について伺う。

〔答弁〕【市長】管理方法及び体制は現在、食料はいきいきブラザ、水は旧青少年ホーム、毛布等は大鷹沢にある旧工場に保管している。

今後これを東北本線の東側と西側に1カ所ずつ、公共施設の空きスペースを活用して備蓄倉庫を整備し、必要な避難所に配送していくことと考えている。

〔教育長〕学校プールの緊急飲用器過装置を設置しているのは、県内では七ヶ浜町1カ所だと思いが、今後情報収集に努めていきたい。

避難所開設時の鍵については、すべての学校・体育館の鍵は教育委員会管理課で掌握している。